

全生工組連

2年ぶりに工組事務局研修会開く



異種の道など2講演

各工組の事務局責任者らが参加した

全国生コンクリート工業組合連合会（阿部典夫会長）は12月10日、東京・茅場町の鉄鋼会館で工業組合事務局職員研修会を開いた。

開会のあいさつで阿部会長は、今年度の生コン需要が9,500万m³を超える見通しになったことを報告し「2年ぶりの事務局研修会で、各県の事情など情報を交換してもらいたい」と述べた。



阿部会長

政策研究大学院大学の橋本久義名誉教授は「臥龍経済日本の中小企業の行方」の題で講演した。橋本氏は通商産業省（現経済産業省）在籍時から中小企業3,523社を訪問した経験を踏まえ、「日本の製造業の強みは、中小企業が持つ高い技術力」と指摘した。景気回復への原動力は「中小製造業の回復が肝になる」と述べた。

慶応義塾大学の米田雅子特任教授は「防災・命の道をめざす異種の道ネットワーク」の題で講演した。異種の道とは「地図に載っている公道（国道、県道、農林道など）だけでなく、民間道や国有林道のこと」



橋本氏



米田氏

（米田氏）。災害発生時に孤立すると予想される集落周辺の公道と民間道を地理情報システム（GIS）に掲載することで、「低コストで緊急時の避難路（接続道）が建設できる」とした。低コストで壊れにくい舗装技術として、早期交通開放型コンクリート舗装「1DAY PAVE」を紹介した。また、米田氏は東日本大震災の発生時に地元の建設業が行った啓開（けいかい）や復興計画、津波対策が急務とされる南海トラフ地震への対応策などを説明した。